

沖縄プロスポーツの現状と未来に関する研究
A study of the present and future of the professional sports in Okinawa
1 K 0 7 B 2 3 9 - 1 前里 亮太
(指導教員) 主査 石井昌幸、副査 寒川恒夫

はじめに

沖縄県は近年、様々なスポーツ分野での活躍が目覚ましい。今年（2010年）、興南高校は、第82回選抜高等学校野球大会と第92回全国高等学校選手権大会において史上6校目の春夏連覇を果たした。夏の甲子園では沖縄県勢として初めての優勝であった。宮里藍選手や諸見里しのぶ選手は、ゴルフ界で圧倒的な存在感を見せている。プロ・スポーツ選手も数多く輩出している。人口わずか140万人強（全国29位）に過ぎず、本州から遠くはなれた県が、なぜこのような大きな成果をあげることができているのであろうか。

本研究では、そんな環境下で活動する琉球コラソン（ハンドボール）と琉球ゴールデンキングス（バスケットボール）という2つのプロチームを取り上げ、沖縄スポーツの現状と課題について考察する。まず、第1章では、近年の沖縄スポーツ発展の要因について考える。次に第2章では、琉球ゴールデンキングスを取り上げ、その成功の理由について考える。最後に第3章では、琉球コラソンを取り上げ、その問題点を分析する。これらの考察を通じて、今後の沖縄スポーツの課題について考えたい。

第一章 沖縄スポーツの発展のわけ

沖縄県のスポーツにおける活躍の要因は、県民の身体能力の高さが一般的に考えられがちだが、調査を進めるうちにそうではないことがわかった。沖縄スポーツの発展の理由の一つとしてその環境を取り巻く地域ぐるみのサポートが活発である点が挙げられ、また歴史的背景として第二次世界大戦において唯一の地上戦を経験したという辛い過去から生み出されてきたパワーそのものがその後の沖縄県の発展、そしてその中の一つのカテゴリーとして「スポーツ」という分野が関わってくることがわかった。

第二章 琉球ゴールデンキングス

第二章ではこちらも県内のプロチームである琉球ゴールデンキングス（以下キングス）について取り上げる。キングスはbjリーグに所属するバスケットボールチームで、創立当初は琉球コラソンと同じく良い成績を収めることが出来ず苦しんでいたが、その後みるみるうちに実力を伸ばしついにはリーグ首位にまで上り詰めた。そのモデルは琉球コラソンにとって間違いなくプラスになることが多いのではないかと考え調査を進めた。その結果、キングスないしbjリーグという組織自体すべてがプロチームということで、組織ぐるみで各チームを支援し、活発に選手を移籍させるなどリーグ内での活性化を図るのは勿論のこと、あくまでもファン第一の姿勢は崩さずに、徹底してファンに向けてのサービスを欠

かさない。そういった組織の体制という面で琉球コラソンと対比して大きな違いがあることがわかった。

第三章 琉球コラソン

沖縄県のハンドボールは小学校から活動が非常に盛んで、ここ10年近くでは小学校・中学校・高校と全国大会に出場するのはもちろんのこと、全国制覇も数多く達成している。特に浦添市では2004年1月にハンドボール王国宣言をするなど、地域ぐるみでハンドボールに力を入れている。第3章ではその中で生まれた琉球コラソンというハンドボールのクラブチームについて調査した。琉球コラソンは日本ハンドボールリーグで唯一1つの企業に依存しないプロチームである。現代の不況と闘いながら支援するスポンサーを獲得しながらチーム運営を進めるが、そこにはまだまだ実力の付いていないチームに企業が簡単には援助するメリットがないなど多くの課題が存在し、苦しい状況が続いている。低迷する現代の日本ハンドボール界においてそういった1つの企業に依存しないチームというのは間違いなく重要な位置にあるはずにも関わらず、琉球コラソン以外の日本ハンドボールリーグのチームが企業に属しているため、容易に援助できない現状を打破していかなければならない。以上のことから、琉球コラソンの前に組織としての日本ハンドボール界自体に多く課題があるのではないかと調査を進めていくうちにわかった。

終わりに

以上の三章立てで本研究を進め、そこに見えてくる沖縄スポーツの姿を捉えたことで、最も私が気付かされたのはプロスポーツの誕生に裏付けられた沖縄県民の郷土愛の強さである。地上戦という過去にあれほどの被害を受けてきた沖縄県だからこそ、県民が一つになって、地域を活性化させようという動きが多く生まれ、その結果スポーツという一つのカテゴリーで県民に夢や希望を与え、より一層の活力を植え付けてきた。そういった基盤が自然に生まれている環境だからこそ、琉球コラソンのような日本ハンドボール界の低迷の影響により、苦しんでいるチームもいつかは芽が出るもののだと言えるし、これから先作られていくであろうプロチームにとってもいい刺激を与えるものになることは間違い無い。今後も一沖縄県民として沖縄スポーツに注目していきたい。